

PLATEAUの3D都市モデルを活用した ユースケースの紹介

令和4年度採択都市の個別事例

広島県

【令和4年6月時点】

I. プロジェクト全体像

1. 実施事業・事業規模

- ◆ 本県では、令和3～5年度の3箇年かけて都市計画基礎調査を実施しており、県内全ての都市計画区域において「建物利用現況調査」を実施することにした。
- ◆ 基礎調査結果の利活用に向けて、R3年度に海田町（県西部）の3D都市モデルを県が先行事例として整備し、官民が保有する様々なインフラデータを一元化・オープンデータ化するために構築を進めているインフラマネジメント基盤「DoboX」において公開予定。
- ◆ 今年度も県において、府中市（県東部）の3D都市モデルを構築するとともに、これら2市町の3D都市モデルの活用事例を他市町に横展開することで、市町独自の3D都市モデルの構築を促す。

(百万円)

R4年度実施事業		規模（想定）	
		事業費	国負担分
(1)	3D都市モデル整備事業（建物データ変換）	2	1
(2)	3D都市モデル整備事業（浸水区域データ変換）	8	4
(3)	変換したデータ（建物・浸水）のシステムへの搭載		
(4)	住民向け防災講座等での活用	—	—



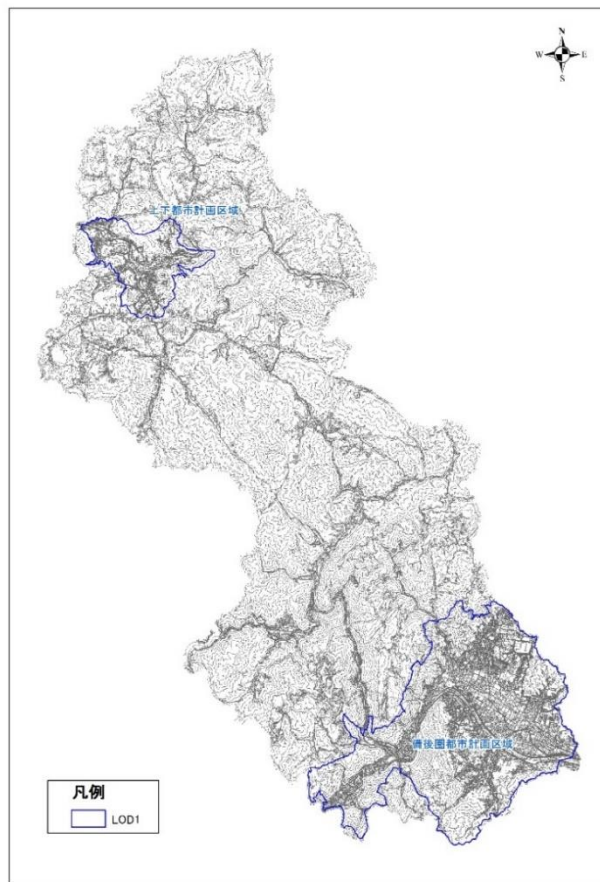
PLATEAU
by MLIT

Ⅱ. 3D都市モデルの整備

1. 整備する3D都市モデルデータの概要

- ◆ 府中市の都市計画区域（約43km²）内の建物、浸水想定区域、土砂災害（特別）警戒区域をLOD1により整備（※その他の基本セットの整備については、事業者等と調整中）

《整備エリア図》





Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

1. ユースケース開発の概要

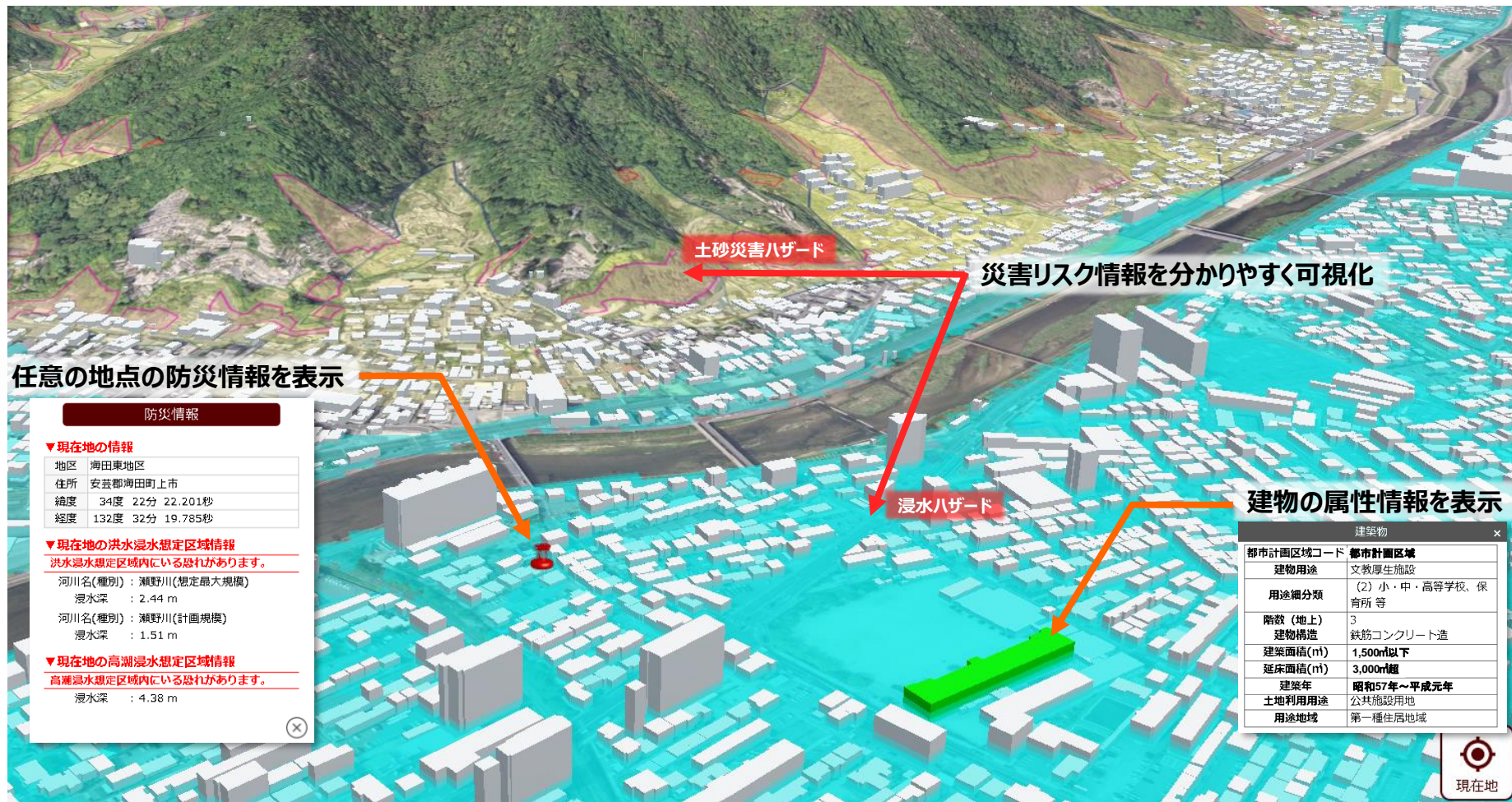
1. ユースケース開発のテーマ	防災	
2. ユースケース開発の件名	災害リスクの3D可視化による防災意識醸成及び「マイ・タイムライン」の普及促進	
3. ユースケース開発の概要	府中市の3D都市モデルに土砂災害や浸水等の災害ハザード情報を重畳することで、 より分かりやすく災害リスクを可視化し、住民の防災意識を醸成するとともに、住民向け防災講座等で活用することにより、「マイ・タイムライン」の普及促進を図る。	
4. 実施体制・役割分担	実施主体 (委託先等)	<ul style="list-style-type: none">・ 3Dマップ構築事業者<ul style="list-style-type: none">➢ 府中市3D都市モデルの構築及び災害ハザード情報の重ね合わせ・ 府中市<ul style="list-style-type: none">➢ 住民向け防災講座等で活用



PLATEAU
by MLIT

Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

2. ユースケース活用イメージ





IV. 事業化までの庁内調整の流れ

- ◆ 令和2年度に策定した県総合計画において、**「DXの推進」を全ての施策を貫く視点の一つとして掲げており**、同年度末に策定した建設分野のDX施策である**「広島デジフラ構想」**では、具体的な取組として**「基礎調査結果を活用した3D都市モデルの構築」**を掲げている。
- ◆ 以上のように、**「庁内全体としてDX関連の取組に向けた機運が高まっており**、また、**「あらかじめ取組の周知も図っていたことから、庁内調整しやすい状況であった。**

